

平成22年1月学術講習会

(社) 日本鍼灸師会
(社) 東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 696 回
(2010.1.24)

演題および講師

婦人科疾患

I. 「月経異常の臨床」

飯田橋レディースクリニック 院長

東京女子医科大学産婦人科 非常勤講師 岡野 浩哉

鍼灸治療編

II. 「掻痒(かゆみ)と鍼灸治療」

—アトピー性皮膚炎と維持透析患者の痒みに対して—

埼玉医科大学 東洋医学センター 医学博士 小俣 浩

「月経異常の臨床」

岡野 浩哉

月経は約 12 歳で始まり 50 歳で終わります。この約 40 年間に女性は月経にまつわるさまざまな病気に遭遇します。月経の異常や月経に関連する疾患を語るにはまず、正常な月経がどういうものであるかわからなければなりません。医学の世界では月経は「一定の周期性をもって反復する子宮体内膜からの出血」と定義付けられています。当たり前そんなことをちょっとむつかしく言いまわすのが医学的定義の真骨頂ですね。この定義に加えもう二つ大事なことがあります。ひと

つは、個々人特有のパターンをもった出血であることともう一つは一定の期間で終わるということです。

月経異常として最もよく耳にするのは「生理が重い、生理痛がひどい」などの言葉ではないでしょうか。医学用語ではこれらを「月経困難症」と呼んでいます。月経の時に日常生活に支障をきたしたり、寝込んだり鎮痛剤を必要としたりする場合を指します。この痛みの程度は人により異なり、下腹部痛・腰痛→頭痛・嘔吐→失神までいくことがあります。

今回は正常な月経をふまえて、月経異常について解説したいと思います。月経不順に不妊症、機能性月経困難症と器質性月経困難症の違い、後者の代表的疾患としての子宮筋腫と子宮内膜症、さらに日本ではまだ認知度の低い月経前症候群などについてお話しさせていただきたいと思います。これらに加え、月経異常との直接的な関係は薄いですが話題提供を2つ予定しています。ひとつは、緊急避妊を含めた避妊についてです。もうひとつは最近皆さんもよく目や耳にするとされます「子宮頸癌ワクチン」について、がん発症原因としてのウイルスからワクチンの実際の話までもさせていただく予定です。

今回の講演が皆さんが患者さまと接する際のコミュニケーションに役立ち適切なアドバイスとして利用していただければ幸いです。



飯田橋レディースクリニック 院長

東京女子医科大学産婦人科 非常勤講師 岡野 浩哉

「搔痒(かゆみ)と鍼灸治療」

ーアトピー性皮膚炎と維持透析患者の痒みに対してー

小俣 浩

痒みは、皮膚・粘膜に生じる不快な感覚で、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、白癬など皮膚科の様々な疾患で起こる代表的な症状のひとつであり、肝機能障害や血液透析患者といった内科疾患にも痒みが起こることが知られている。アトピー性皮膚炎は湿疹・皮膚炎群に含まれるが、痒みの原因となる皮膚病変が見られないに関わらず痒みがある場合に“皮膚搔痒症”といわれ、慢性腎不全や血液透析患者の搔痒症は全身性搔痒症に分類される。痒みはこれまで受容器の存在が明確でなかったが、痒み物質を含むトゲを皮膚に刺してどの深さに達したときに痒みを感じるかを調べた実験で、表皮と真皮の境界部分にトゲが刺さったときに一番強い痒みを感じるということがわかってきた。痒みを感じる部位(痒点)は皮膚に点状に分布し、痒点にはC線維とA δ 線維という細い神経線維が多く、痒み受容器に作用する適当刺激には、圧迫、温度の変化、電気などの物理的刺激と薬物などの化学的な刺激があるといわれている。痒みを起こす化学物質の中で最も重要なのが、ヒスタミンである。

一方、鍼治療の効果メカニズムには、①鎮痛効果(いわゆるハリ鎮痛)、②自律神経系に対する効果(体性-自律神経反射)、③血流動態に対する効果、④自然治癒力・抵抗力に関する免疫能の活性化、⑤その他が考えられている。特に鍼鎮痛には、①内因性疼痛抑制機構(β エンドルフィン, エンケファリン, ダイノルフィン)・オピオイド受容体(μ , δ , κ)・下降性痛覚抑制系、②Gate control Theory(脊髄)・非オピオイド、③軸索反射(Axon reflex)の関与が推定されるが、“搔痒感”は内因性オピオイド(エンドルフィン・エンケファリン・ダイノルフィン)に関係し、痒みの増進・抑制に作用する。アトピー性皮膚炎の痒みは末梢性、透析患者の搔痒は中枢性の痒みである。ゆえに、鍼灸治療の効果作用機序も異なることが考えられる。これまでの我々の研究の結果、アトピー性皮膚炎に比較し、

透析患者の掻痒症の鍼効果が良い印象がある。恐らく、アトピー性皮膚炎の炎症、痒部局所には同脊髄分節（デルマトーム）上の鍼通電療法が効を奏し、曲池穴-合谷穴への鍼通電療法は、更に高位中枢を介し β エンドルフィン（ μ レセプター）を抑制し、ダイノルフィン（ κ レセプター）亢進させ、双方のバランスを保ち、維持透析患者の全身性掻痒を改善する可能性が示唆される。今後、詳細に検討したい。



埼玉医科大学 東洋医学センター 医学博士 小俣 浩